

最近の教育現場状況

全寮制中高一貫の学園勤務を終えて

佐藤 修一 陸自75

はじめに

諸先輩から、「醜く生きるよりも美しく生きよ」「山頂から下山する際に大事なことだ」と教えられてきた。

その意味で、この美しい日本の自然・街並み・人の心を継承する若者の教育現場に、自衛隊退職後、今年の3月末まで9年間、愛知県蒲郡市に所在し、設立間もない全寮制中高一貫校「海陽学園」のハウスマスター統括として、勤務したことは私にとつて貴重な人生の一区切りであった。

ハウスマスターというのは舎監のような立場であった。寮は12個に区分されそれをハウスと呼び、それぞれにハウスマスターがいる。私は一つのハウスのマスター兼全体の統括という地位であった。若い人を相手についつい人生のあるべき姿を語ってしまうのは私のもつて生まれた性格で、お許しいただくとして、この9年間は大変ありがたい、充実したものであった。その教育現場から見た、若者、保護者、教員の現状の一端を紹介させて頂く。

教育現場の状況

生徒たち（中学生・高校生）のその軟弱ぶりに驚いたことがある。ある時、大型台風の直撃を受け学園全体が数日間にもわたって停電した時だ。生徒たちが非常食を食べようとその缶詰を開けようとするが、その缶詰の使い方がわからないのだ。また、ローソクをつけようとしてもマッチの使い方がわからなくて当惑している。

また、小学生から入寮する時は先輩への敬語などわからずタメ語であったのが、1年を経過し新入生を迎える立場（パディとして）になると、今の若者の言葉使いは何だ、と言うのだから実に面白い。

また、生徒のデジタル能力には本当に驚く。学園が生徒全員に貸与しているPC（携帯パソコン）操作は抜群で、そのプレゼン能力などはプロ顔負けのスキルである。

教員も大変である。昔は、「飲む・打つ・買う」と言われていたが、最近の先生は、「飲むのは、毎日のストレスで飲む胃薬」、「打つは、うつ病のうち」、「買うは、いつでも辞めて良いように買う宝くじ」との笑い話もある。

日本の若者は大丈夫か？
「大丈夫！」

ある中学三年生が、統括（学園での小生の呼び名）、この本読まれましたか、と差し出してきたのが、「八月十五日に吹く風」・『黄砂の籠城』（松岡圭祐著）、と『海の翼（エルトウールル号の奇蹟）』（秋月達郎著）である。まさに、旧軍の光り輝いた部分を題材にした本であった。

全寮制の校内では携帯電話（スマホ）が禁じられているため、生徒達は本を読む習慣がある。歴史上、元寇・日清・日露戦争・太平洋戦争等で日本民族の大和魂・武士道精神が如何なく発揮されたことを、貪欲に知りたがり、結果的に、素晴らしい活躍をした日本人を誇りに思っているのだ！

主観を交え結論を述べるならば、現在の若者も、先人同様、日本民族として営々と築き上げてきた歴史・伝統・文化を引き継ぎ、世界で活躍するに違いないと確信する。

なぜならば、生徒達は、ピュアな心を持ち、スポンジや砂漠のような吸収力に長けており、気質的にも、好奇心が強く、明るく、素直であるからである。

また、世界中の人々が、太平洋戦争でアジアの植民地を解放してくれたこと、日本の戦後における驚異的復興を知り、地勢学・風土上、地震・津波・台風等天変地異に鍛えられてきた民族

であることを承知しているからである！

現代の青少年は一般的に活字離れで、本・新聞も読まなくなり、食い入るようで見ているのはスマホ・SNSだけである。その分、左翼的な新聞・雑誌からの影響は少なくなりつつあるのが現状である。青少年達には日本民族の勇敢さ・英知がDNAとして引き継がれていることには間違いなく、まさしく日本の宝であり原石なのである。

「やや心配だ！」

一般的に言われている、ゆとり教育、左翼教育、スマホ普及の影響もあり、ポオオっとしていて、反応が薄い。メンタルが弱く、キレル・心が萎える。我慢強くない等の欠点も有していることも事実である。また逐次改善されつつあるとはいえ、先人の多くの犠牲があつての今日の平和であるとの認識が薄いのも事実であろう。

従って、逆境がなく、危機感に乏しい現状において、如何に若者の心に火をつけ、日本人の矜持を保ち、世界に羽ばたさせるか、その青少年の人間力の育成責任を我々の世代が担っているのだ。

海陽学園

まだ七期生までしか卒業していません

創立まもない学園であるが、自慢げに述べるならば日本のパワースポットであると思う。

毎年東大、防大・防医大など難関大学、外国へ留学生を数多く輩出する進学校であることもさることながら、学園の一番のウリは、なんとと言っても全寮制が育む「タフなジェントルマン」「頭の偏差値よりも心の偏差値」を求める学園であることである。

特に、親元を離れ、中学・高校の六年間の全寮制で、絆・社会性・コミュニケーション能力もさることながら、ハウス対抗など多様な行事から、自立心・自己抑制思いやり、人間力、リーダー力が育成されるからである。

学園は、教育関係者が創設したのではなく、経済界が、今の日本の若者の内こもり現象が、このままでは海外留学希望者が激減し中国・韓国・インド等の新興国に負けるのではという懸念から、トヨタ・J R東海・中部電力三社が基幹となり9百社以上からの出資を得て220億規模で14年前に設立された。

一学年120名の定員で、小学校を卒業し受験で合格入寮した中学生・高校生を対象とした6年間の全寮制学園である。全額無料の特別給費生を除き、年間280万円ほどの親の負担がかかるため、総じて裕福な家庭環境で育つ

た生徒達で構成され、標榜するのは700年もの歴史を有し数多くの首相を輩出してきた英国イートン校である。

校長のリーダーシップ

海陽学園の2代目の校長である、中島校長は、東京大学の名誉教授であり、NHKの経営委員会メンバー等を兼任されているが、単身で教員住宅に住まわれ、全身全霊で生徒指導にあたっておられる。

特にリーダーシップを標榜する学園において、校長先生自らの顕著な活模範の例が、食堂の入り口に毎朝立たれ、全生徒と挨拶を交わすことを常としていことだ。しかもなんと全生徒約700名の名前と特徴を把握されているから驚く。従って全国各地の保護者会に参加しても、どのご子息のことも瞬時にその特徴を述べられるから、保護者は驚き・信頼度も抜群である。

また、生徒同士のいざこざ、生徒の過失であっても、全寮制校内で生じた生徒指導案件、そのすべては教員・ハウス側の管理責任であると常に明言されていた。

生徒対応のコツ

若者の特徴は、「精神的豊かさにハングリー」なことである。

生徒気質が変化するにつれ、教育指導者も変化すべきで、いかに生徒個人のパーソナリティーを生かすか、心に届く言葉で成長を促すか、そのためには、ハウススタッフ・教員は、人生経験(特に失敗経験)の豊かさを活かす、時には「役者・医者・占い師」に徹すべきなのである。

ある時、有名な化粧品会社の御曹司が入寮してきた。整理整頓・勉強はやや苦手ながらも、反骨精神が旺盛で、茶目つ気があり、なぜか輝くものが備わっていた。一般的には豊か社会で育つた若者は、ハングリー精神、ガッツがないとも言われているが、今の青少年は総じて、愛嬌があり、人柄は良く、教えがいのある気質である。それが6年後の卒業時には、持続力・忍耐力を身につけ、嘘をつかない・約束は守り、人に迷惑をかけず、真剣に生きようと、大変身することになる。

人間関係・信頼関係のコツは、日々の声かけと、ホメルことである。

美点重視であり、関心と賞賛が重要である。その実践こそがビタミン剤となり信頼・一体感醸成の有効な手段となるのだ。自衛隊同様、ぬくもり・温かみがある組織作りは、人間くささ・人情味の世界が大事なのである。

生徒・保護者・教員が、「感動を共有」することになればしめたものであり、

生徒目線で虚心坦懐に接し「謙虚さ」を忘れないことだ!

活性化のコツは、闘争心の涵養であり、競い合いからだ。

全寮制で12ハウス編成(そのうち二つは6年生の受験専用ハウス)であり、行事をハウス対抗にすると、生徒達は、自主的に上下級生が「丸」となり燃える集団と化し、闘争心の涵養・リーダーシップと深い絆が育成される。

勝つことが重要ではなく、勝ちたいと思わせること、あきらめないこと、満足しないで努力すること、気を抜かないことが肝要であり、やる気・意欲・情熱等、感情のコントロールが重要なのである。

競技で勝つたときは「君達は……」、負けたときは「我々は……」と生徒達と同じ立場に立つことにも心がけたところだ。

教育のコツはエデュケイト、すなわち引き出すことである。

共感を呼ぶ言葉、心に届く言葉、成長を求める言葉を発することでもある。基礎学力を習得させるためには、如何に学ぶことの楽しさを引き出すかが重要であり、その意味では、全寮制であり先輩が後輩を教える環境は非常に良く、数学でも国語でも、生徒の得

意科目を強点・突破口として頑張らせ
ることである。

ハウスマ管理のコツ（要諦）は規律の
維持である。

その秘訣は「小人閑居して不善をな
す」で過度に暇を与えないことも知
れない。その意味で、ハウス対抗行事
を考慮したメリハリ・緩急つけた年間
計画を作成するのが重要であり、合わ
せて、時間厳守、服装・身だしなみ等
の躰を厳正に行い、生徒指導案件（信
賞必罰）は迅速に行うことが必要であ
る。

保護者について

かわい子には旅をさせる、そんな
親心で全寮制の本校を選んだ保護者は
押しなべて立派である。保護者は、そ
のほとんどが学園を信頼し理解し協力
を惜しまない有難い存在である。そん
な中にも時には「モンペ」と呼ばれる
モンスターペアレントの存在がある。

私の在任間それほどひどいケースはな
かったが、ある生徒が定期試験を終え、
英語の試験解答結果の確認の際、書き
直すという改ざん行為をしたのだ。保
護者は子供をかばうためいろいろとク
レームをつけてきた。そこで担当教員
と連携し、保護者に対し早速、「校長
にカンニング行為として報告し、退学

を含め厳正に対応したい」と厳しい方
針を伝えたところ、保護者から丁寧な
謝罪があり、大げさにすることなく穏
便に済ませることができた。本音で話を
して理解してもらってこちらも感謝し
た。それ以降クレームまがいの行動
はなくなった。

教師について

やんちゃ坊主を、いかに荒削りでも
よいからタフなジェントルマンに育て
るか、その要諦は「自分磨き・自己教
育であり、本気度・熱量が重要なので
ある」。その教育現場では、決して上
から目線ではなく、目線を下げること
が肝要だ。

全寮制学園では、フロアマスター
（FM）という、一流協賛会社から毎
年入れ替わりで、約30名の独身・イケ
メン兄弟貴方が配置され24時間密着し生
徒指導にあたってくれている。もちろ
ん、酒・タバコは校内では厳禁で、飲
む機会が極端に少なくなり、これでは
肝臓を劣化させるだけだとの親心か
ら、休日等を利用して、宿舎でサケのチャ
ンチャン焼きをふるまい、異業種交流
を楽しんだ。

ある理科のベテラン教員から学ん
だ。「毎回の授業、その最初が勝負で
ある」と。いかに事前準備として雑談

力で生徒を引き付けるか、多くの引き
出しを持っているかが重要で、真面目
だけでは決して生徒を引き付けられな
いと言ったのだ。

教師の宴会に出るのだが、一種不思
議な感じを最後まで抱いた。なんせ最
初の乾杯から終わりまで生徒の話題だ
けなのである。職業意識が高いと言え
ばその通りではある。自衛官同士の宴
会では必ずや中国・ロシア・韓国等、
何するものぞ、という天下国家論を一
度は吹くことが多かった。もつともそ
れはそれで自衛官の職業意識の高さで
もあるから、基本的には同じかもしれ
ない。しかしそれにしても教員は、極
めて真面目な集団である。

終わりに

未来を託す生徒・青少年達には、日
本の先人達が正にそうであったよう
に、「醜く生きるよりも、美しく生き
てもらいたい」。

哲学者アルキメデスも美の追求をし
たが、研ぎ澄まされた刃先にも似た緊
張感が「美」の中には必要と思う。戦
略・戦術も巧緻より単純な美しさが求
められる。若者の日常生活において、
緊張感と無駄を省くことが必要かも知
れない。日本の美は華麗ではなく、簡
素の中の美しさであると思う。この美
しさを日本の若者にも生活の中から身

に付けてほしい。寮生活では個人のス
ペースも限られ、私物も最小限の物を
持つだけである。物に囲まれ物質的豊
かさばかりを享受する昨今の子供たち
とはずいぶん違う、簡素な生活環境で
ある。

本校の生徒たちには高い素養と、こ
こでの素晴らしい教育があり、将来は
各界のリーダーに育っていくと思う。
英国にはノーブレス・オブリージュ
という考え方があがるが、いざという時
最前線で戦う気持ちだけは忘れないで
もらいたい。リーダーは困難の焦点に
立てともいう。そういうったことも教え
てきたつもりだ。

最近の日本では、徐々に教育現場、
社会通念においても、戦後のゆがんだ
教育が修正され、本来の日本人として
の歴史・伝統・文化に誇りを持ち始め、
世のため・人のため、パブリックマイ
ンド（社会貢献）が復興しつつあるよ
うに思う。若者の教育には良い方向だ
ろう。

今後は、自衛官であったこと、学園
に勤務してきたこと、その誇りを心の
拠り所とし、学園の卒業生達の成長ぶ
りを楽しみに、彼らに恥じない生き方
をしていきたいと思っている。